



# 1月 土居隣保館カレンダー



日	月	火	水	木	金	土
						1 元日
2	3 きゅうかんび 休館日	4 仕事始め	5	6 入-アロビ ック 10:00~	7	8
9	10 せいじんひ 成人の日	11	12	13 入-アロビ ック 10:00~	14	15
16	17	18	19	20 入-アロビ ック 10:00~	21	22
23/30	24/31	25 しよくぎようそうだん 職業相談 10:00~ たいそうきょうしつ 3B体操教室 10:00~	26	27 入-アロビ ック 10:00~	28 どい りんぼかん 土居 隣保館 じんけん どうわ 人権・同和 きょういくこうえんかい 教育講演会 19:00~	29

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定が変更・中止となることがあります。ご了承ください。

隣保館では、人権相談や職業相談を行っています

悩んでいることはありませんか？

隣保館は、いつでも人権に関わる悩みを相談できる窓口です。「職場

でのハラスメント」、「職場や学校に行けない」など何でも相談してく

ださい。また、毎月25日（原則）は、ハローワークの巡回相談（職業

相談）を行っています。

# 土居隣保館便り

# 1月号

発行:土居隣保館 〒799-0703 土居町藤原 5-400-3 TEL/FAX 28-6356

あけましておめでとうございます

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

新しい年が皆様にとってよき年でありますよう心からお祈りいたします。

新型コロナウイルス感染症で様々な制約を受けるなか、皆様のご理解ご協力のもと、安易に中止を選択せず、できる方法を模索することで土居隣保館事業を継続することができました。コロナ禍だからこそ、一人ひとりが大切にされるまちづくりを目指して、粘り強く取り組みたいと考えております。

本年もご支援よろしく願いいたします。

2022年1月  
土居隣保館館長 村上 正哲

就学前合同部会（土居隣保館人権・同和教育講演会）の開催から

11月12日（金）、講師に川の江南中学校 石橋範子先生をお迎えし、就学前合同部会を開催いたしました。石橋先生は、人権・同和教育をすべての教育活動の基盤に据え日々実践を積み重ね、全国人権・同和教育研究大会での実践報告や人権・同和教育研修会の講師をするなど活躍されています。今回は『「私は」どう生きるのか～人権・同和教育を通して学んだこと～』と題して、就学前の先生を対象に、同和問題との出会いを通して学んだことを自身の体験と重ねながら語っていただきました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、残念ながら講演後のグループによる話し合いの場が持てず、その場で深め合うことができませんでした。各園から寄せられた感想の一部を紹介することで研修につながれば幸いです。

○自分の身近にいる人には、差別をしない人でいてほしいと本当に思う。しかし、気になる一つひとつを丁寧に話せていない自分がある。石橋先生の言っていた「何となく気づいていた家族の中の偏見、差別心」と同じ状況なのかもしれない。自分の身近な人だからこそ、気づけるように関わってほしい。

○講話を聞いて「命を預かっている」ということを改めて考え、責任の重さを痛感しました。保護者の思い、その子の人生を預かっているということを常に考えたいです。逆上がりのお話では、ついやらせたいと思ってしまう自分もあり、今までを振り返り反省するところもありました。「その子のため」と思っている行動も見直す必要があるのだと感じました。自分の気持ちの持ち方で、こんなにも生き方が変わってくるのだと思いました。感じただけでなく、どう行動するかが大切なのだと思いました。今までの自分の行動力の無さも反省しました。すぐ前向きな気持ちになれた心に残る講話でした。自分のためにもっと学習し、行動していきたいです。

○人権・同和教育は自分のためにするということが印象的でした。ついつい差別されている人のために…という思いになってしまうこともあり、そういうのって違うよなと思っているのに、また時々そんなふうになってしまうこともありました。今回お話を聞いて、自分のために差別をなくす人になりたいと思いました。自分のことを語ってくださることで情景も浮かび、そして何より心に響いてきました。命を預かっているという重みを実感しながら、これからも保育にあたっていきたくて思います。

○お話を聞きながら、私自身の同和問題との出会いを振り返りました。「そうそう、差別をしているのは私ではない。している人を変えなくては！」と思っていたな…。「差別を残しているのはあなたでしょ」ということを突き付けられた時に、なんとも言えない気持ちになったことを思い出していました。「先生に何かしてもらおうなんか思っていない。ただ、差別に対して、許せんよな！悔しいよな！と一緒に拳を握ってくれたらそれでえんよ」という言葉と、南沢笑子さんの解放新聞を読んだ時、自分の考えがガラッと変わりました。自分の人生にも色々な転機があり、その都度、周りとは比べることなく進むことができたのも、私を変えてくれた同和教育のおかげだと、出会わせてくれたことに心から感謝している自分があります。だからこそ、間違った差別心に縛られることなく、自分らしく生きていって欲しいという願いや思いを持って、子どもたちと向き合っています。しかし、弱く流されそうになる自分があることも事実です。差別をなくそうとしている仲間との話らいや研修は、自分を後退させないために必要だと、今回の研修でも確認できました。

○私は新転任の養成講座で石橋先生のお話を一度聞かせていただきましたが、2回とも自分の言動を改めて考えることができました。子どもが目の前にいる、命を預かっているからこそ絶対に差別に合わせるはいけないという気持ちを持ち、子どもたちの未来から差別がなくなるよう行動しなくてはならないと感じました。私は四国中央市で育ちましたが、中学の頃、部落差別はなくなりたいが、部落差別は日本どこかの遠いところの話であって身近なものではないから、どう行動したらいいかわからないと思っていました。ですが、今現在、こんな近くで自分たちが見ている子ども

たちも差別されるかもしれないとなると、他人事ではなく少しでも行動に移していきたいと考えました。また、石橋先生のお母さんがすごく長い時間をかけて変わってくれたことにとっても感銘を受けました。私は、私の母がどれだけ人権・同和教育について考えているかはわかりません。どれだけ知識を持っているかわかりません。だからこそ、差別をなくす仲間であって欲しいと思い、人権・同和教育の冊子を机の上に置いたことがあります。動いてなかったのに読んでいないと思います。少しずつですが身近な母を仲間にするように働きかけをしていきたいと思うし、これからの研修などで学んだことを伝えていきたいと思います。保育士として子どもたちに伝えられることは限られていますが、5つの目標を行うことや、言葉遣いや行動を見本となって行動することは3歳でもできるので、自分の行動に気を付けながら、子どもたちの心を育てていきたいと思

○就学前の現場で直接子どもたちに人権・同和教育について伝えていくことは難しいかもしれないが、保育士自身が正しく学んでおくことで視野が広がり、子どもとの関わり方が変わってくるとい話がとても心に残った。一人ひとりの個性を大切に、子どもたちと関わっているつもりでも、逆上がりの話を聞いて、「みんなと同じように」逆上がりができることがすごいと思ってしまうことに気づき、はっとさせられた。見方を少し変えることを意識して、これからいろいろなことを学んだり経験したりしていく子どもたちの命を守っていくためにも、しっかりとした心の根っこや土作りをしていきたいと思う。

○自らの生き方を語る生の声に体が熱くなり、怒りを感じたり自分の今の姿と向き合いながら話を聞かせていただきました。土居中に赴任し「先生がゆっくり勉強しよる間に娘は卒業してしまう。娘が差別におうたら先生どなんすん」という言葉を聞き、矢印が自分に向いた瞬間だったという話がありました。私自身も地域の方から何度も差別の現実の話聞かせてもらってきました。ある時「あんたらはこうやって話聞いて勉強しても家帰ったら忘れていくんやろうけど、わしらは部落差別と24時間、365日ずっと向きおうとるんや」という言葉を突き付けられ、まさに自分に矢印が向いた瞬間で、頭をガンと殴られたような感じでした。20数年間知らず知らずのうちに、自分は被差別の立場ではないことを空気のように流れる差別や偏見の中で感じ取り、他人事にして生きていたこと。そういう自分と向き合い、恥ずかしくなり嫌だとも感じました。そう感じ、差別をしない、許さない生き方をしようと向き合っていますが、いまだに部落差別が残っている現実があります。よく「差別はいまだに残されている」と聞いたり、自分も同じように言うことがあります。残されているのではなく、自分がその差別を残しているのだということをお忘れたいと思います。気が付くと他人事になっている自分があります。自分に矢印が向いた瞬間をお忘れなく、自分に矢印を向け、向き合い続けていきます。

なお、1月28日（金）19時から、土居隣保館で再度、石橋先生の講演会を開催予定としております。いい機会ですので、お聞きになりたい方はぜひご参加ください。

